

整備コンセプト・整備方針

整備コンセプト

1回の子どもワークショップと2回の市民建設ワークショップを通じて意見交換を行いまとめた整備コンセプトを以下に示します。

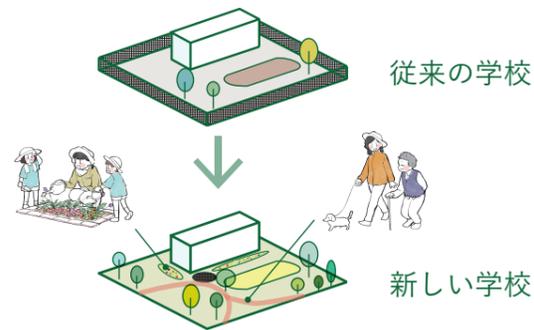
【整備コンセプト】9年間共に育つ学び舎

子どもたちが9年という長い年月を過ごす学び舎は自由で、多様で、喜びや発見に満ちた場所です。
子どもたちの成長を見守り、地域と共に育っていくような学校をみなさんと一緒に考えていきます。

整備方針

整備コンセプトを具現化するための具体的な方針を示します。敷地内の外部空間、学校共用部、教室及びワークスペース、3つのエリア毎の整備方針を以下に整理します。

【整備方針】緑にあふれ、地域と育む「みんなの庭」

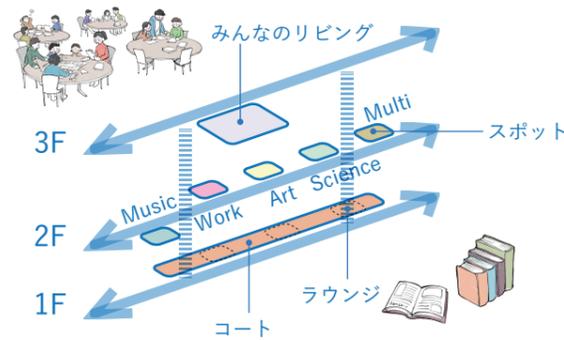


大きな面積を占める学校敷地を、多くの市民に活用され、時間をかけて地域とともに育んでいく場とします。

従来の閉鎖的な学校ではなく、花壇やシンボルツリーといった緑を取り入れ、地域景観にも配慮した健康的な発育環境を整えます。

1階の各教室に面する外部には、直接外に出て植物の世話や外遊びができる低学年の庭を整備します。

【整備方針】校舎全体が学習のきっかけに満ちた「学びの森」

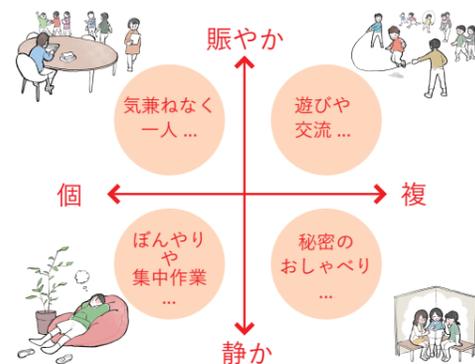


3階： 学年単位や異学年交流ができる「みんなのリビング」を計画し、全学年の児童生徒が3階を利用する機会を作ります。

2階： 廊下を単なる通過動線とせず、特別教室の特徴に応じた変化に富んだスペースを用意します。

1階： オープンな図書スペースを中心としたメディアコートを学校の交流の中核として計画します。

【整備方針】ひとりでもみんなでもいつでも居心地の良い「大きな家」



ひとり（個人）でいれる場と、みんな（複数人のグループ）でいれる場を教室の周りに散りばめて配置します。

授業だけでなくさまざまな使い方・過ごし方ができるように、

賑やかな場と静かな場といった変化を掛け合わせて空間をつくります。

1stステージ(1, 2, 3, 4年生)

1階の南側に1stステージの学年ユニットを配置します。学校生活の基礎を確立する低学年(1年生、2年生)を人の往来が少なくより落ち着いた環境である東側に配置します。

職員室、管理ゾーン

1階北側に職員室をはじめとする管理ゾーンをまとめます。児童生徒の登下校の様子が見え、来客対応がしやすい事務スペースを用意します。保健室は、救急車対応がしやすいよう独立した出入口に隣接した配置とします。

特別支援教室(前期)

1stステージに近接して、前期の特別支援教室を配置します。

アリーナ

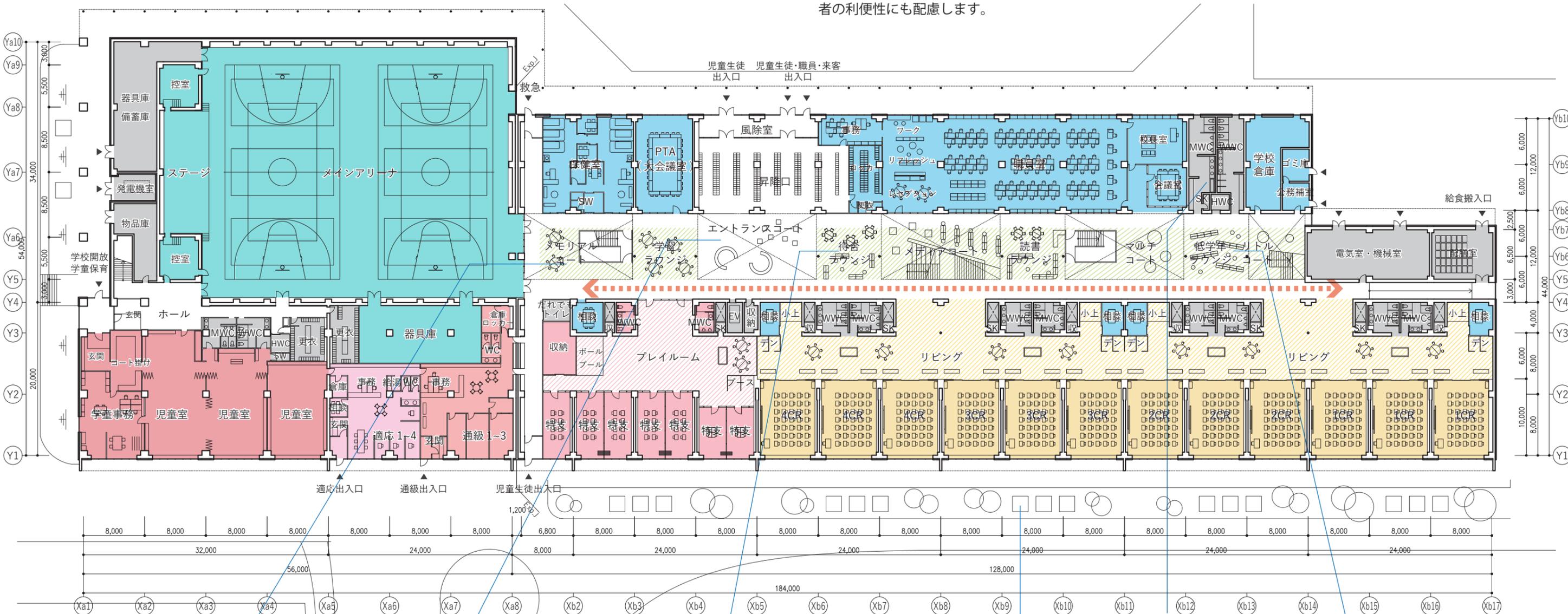
北西側にアリーナを配置します。児童生徒の日常的な利用はアリーナ東側のドアから行います。また、学校開放用として、西側に独立した出入口を設け管理区画が形成しやすい計画とします。また、十分な器具庫面積を確保します。

通級指導教室、適用指導教室

通級教室は、自校からの利用と、他校からの利用に配慮してそれぞれの出入口を設けます。適用教室は、学校とは別の独立した出入口を南側に設けプライバシーに配慮した計画にします。

学童保育

南西角に学童保育を配置します。駐車場に面した西側に出入口を設けることで、迎えに来る保護者の利便性にも配慮します。



異学年交流スペース



吹抜けて天井が高い空間
基本設計書

エントランス



バスの待合や読書スペースとなる大空間

ラウンジ空間



天井高の低い落ち着いたスペース

学校菜園



教室の外に直接出ることができ、花壇の世話や遊びを促す

リフレッシュコーナー



化粧や歯磨きができる快適な水廻り空間

低学年の図書コーナー



天井高が低く落ち着いた空間

※写真は活動シーンのイメージであり
検討中の内容です

2ndステージ(5、6、7年生)

2階の南側に2ndステージの学年ユニットを配置します。

特別教室とスポット

2階の北側に特別教室をまとめて配置します。性格の近い二つの特別教室の準備室を一つに集約してユニット化します。また特別教室の手前にグループ学習や展示に使える共用部(スポット)を設置し各特別教室の特徴に見合った空間作りを行います。

特別支援教室(後期)

2ndステージに近接して、後期の特別支援教室を配置します。エレベータや階段にも近接しているため1階に配置した前期の特別支援教室と連携しやすい配置になります。

音楽室

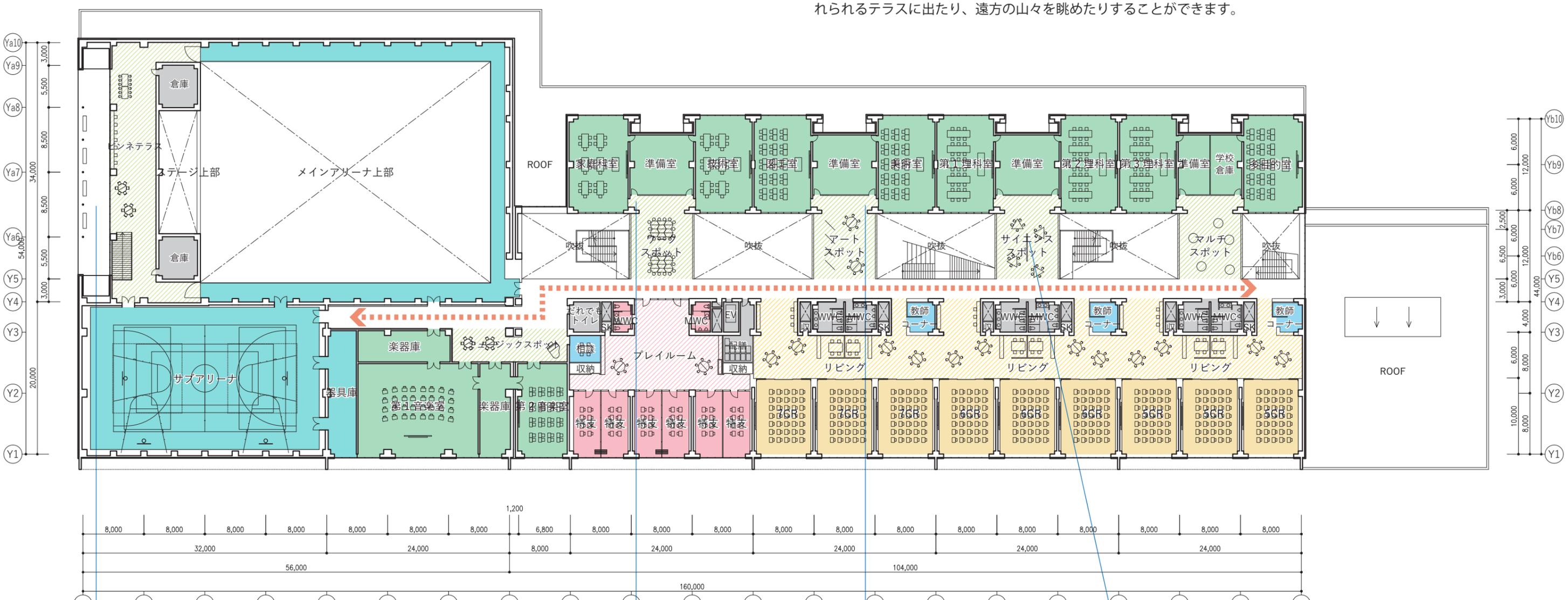
音楽室を2部屋整備します。第1音楽室を吹奏楽部の練習や集会イベントにも活用できる十分な広さや天井高さを持った部屋として計画します。楽器庫をしっかり確保します。

サブアリーナ

南西角にサブアリーナを配置します。音の影響に配慮し、二重床の採用を検討します。加えて下階には体育の授業時には児童の利用が無い室(学童保育)を配置するよう配慮します。

ピンネテラス

サブアリーナのホワイエ機能、部活動のウォーミングアップ、一般開放時の休憩スペース等に活用できるリフレッシュコーナーをアリーナの西側に設置します。窓を開けフレッシュな空気に触れられるテラスに出たり、遠方の山々を眺めたりすることができます。



眺望の良いテラス



フレッシュな空気に触れられる快適な居場所

天井の高い吹抜け空間



試食や制作ができる場所

工作コーナー



作品制作や展示スペース

実験・レクチャースペース



グループワークの成果を発表する場

※写真は活動シーンのイメージであり
検討中の内容です

3rdステージ(8、9年生)

3階の中央南側に3rdステージの学年ユニットを配置します。

みんなのリビング

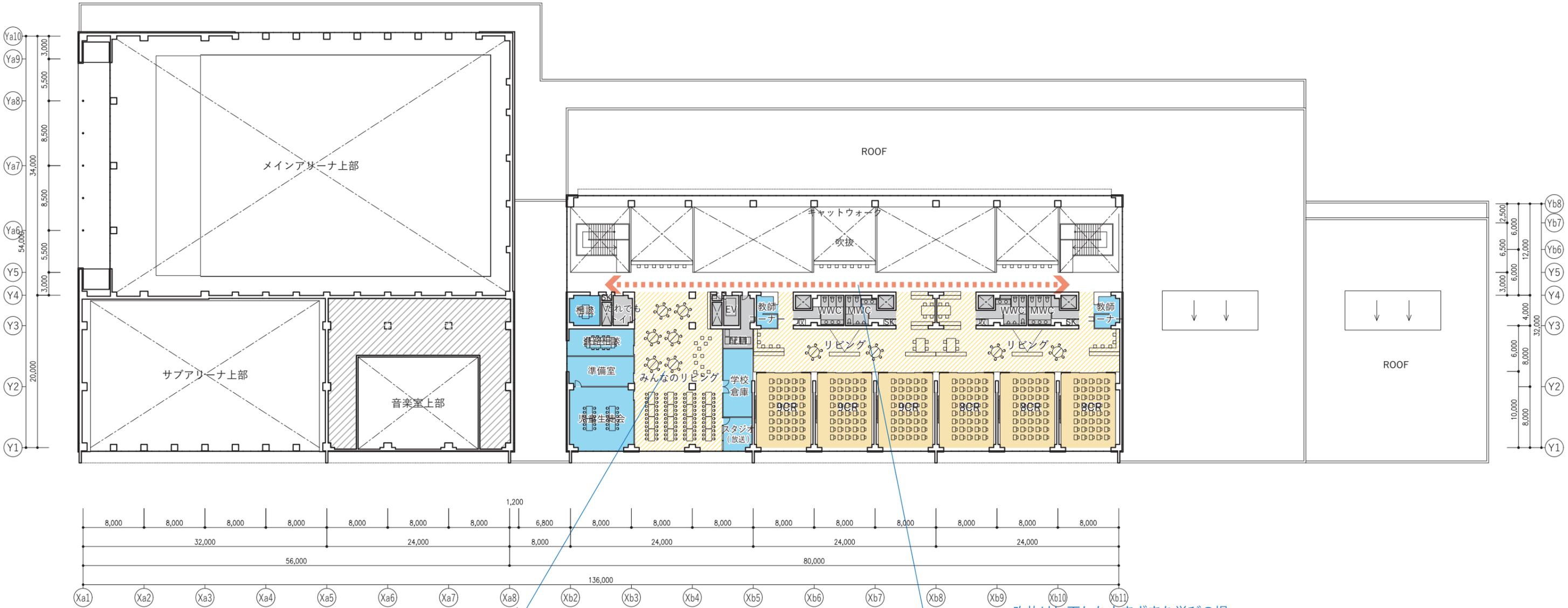
西側に学年によらず誰でも利用することができる多目的スペース(みんなのリビング)を設置します。学年単位や複数学年の集会や、ランチルームとして利用することもできます。1stステージや2ndステージの児童生徒が気軽に3階を訪れて利用できるような場を目指します。

スタジオ(放送室)

みんなのリビングに隣接して放送設備を設えたスタジオを設置します。お昼の放送や、グラウンドが見えるため運動会時の放送拠点としての活用も可能です。

児童生徒会室

みんなのリビングに隣接して児童生徒会室を設置します。学年に依らず児童生徒が集まる場所を南側で眺めのよい場所に整備し交流がしやすい雰囲気を作ります。



みんなのリビング



学年を跨いだ交流の場、ランチルーム

吹抜けに面したさまざまな学びの場



賑やかな空間の中でひとりになれたり、友だちと会話できる場所

※写真は活動シーンのイメージであり検討中の内容です

【1stステージ】

基本的な生活習慣や学習習慣の確立を目指します。一人で落ち着き安心して過ごせる場所や、仲間と体を動かして遊んだりできる場を作ります。



一人でもみんなでも安心して過ごせる環境

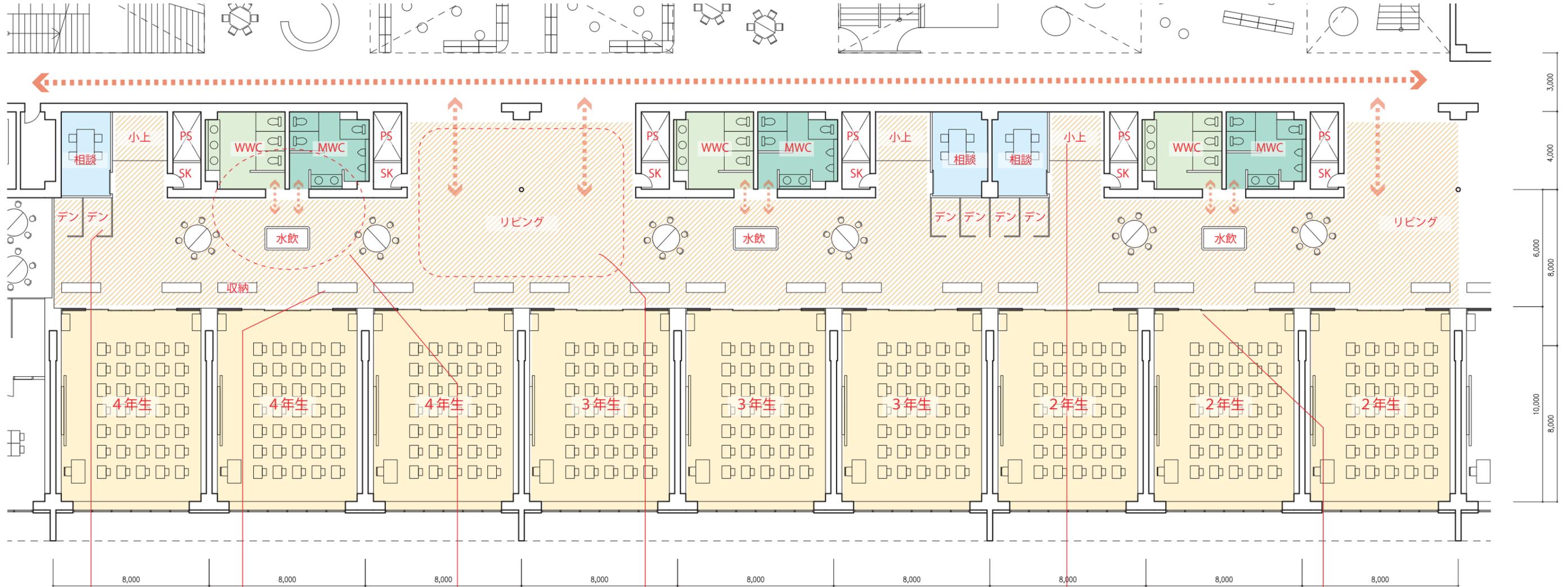
一人で気兼ねなく落ち着いて過ごすことができるデンや、小上がり、みんなで縄跳びや小運動ができるワークスペースなど、誰もが安心して学校生活を始められる環境を作ります。

交流の場になる水飲みや、使いやすい収納で生活習慣の確立を目指す

トイレの出入口付近にアイランド型の水飲みを設置し交流の場とします。また、教室入付近にコート掛け、荷物収納をまとめ休み時間の荷物の出入などもしやすい場にします。

フレキシブルな教室間仕切り

教室とリビング間には、大きく開放することができる引き戸を設置します。開放し子どもたちがリビング側に移動しやすい設えとしたり、閉じて授業に集中したりと選択的な利用ができます。



デン 静か×個



ひとりになれる空間

教室入口回りの収納（可動式）



収納を集約し、生活・学習習慣の確立を目指す

学年トイレ

学年単位でトイレの入口、水飲み場を集約して交流の場とする

リビング（ワークスペース）



間仕切りを開放することで2学年が集まったり、おしゃべりや小運動も可能な自由な空間となる

賑やか×複

小上がり 静か×複



落ち着いた場所でわいわい

開け閉めしやすい引き戸



※写真は活動シーンのイメージであり検討中の内容です

【2ndステージ】



教科担任制がはじまり移動教室が増え、徐々に習熟度の振れ幅が大きくなるステージであるため、児童生徒が主体的な生活を送れる選択的なスペースを整備します。

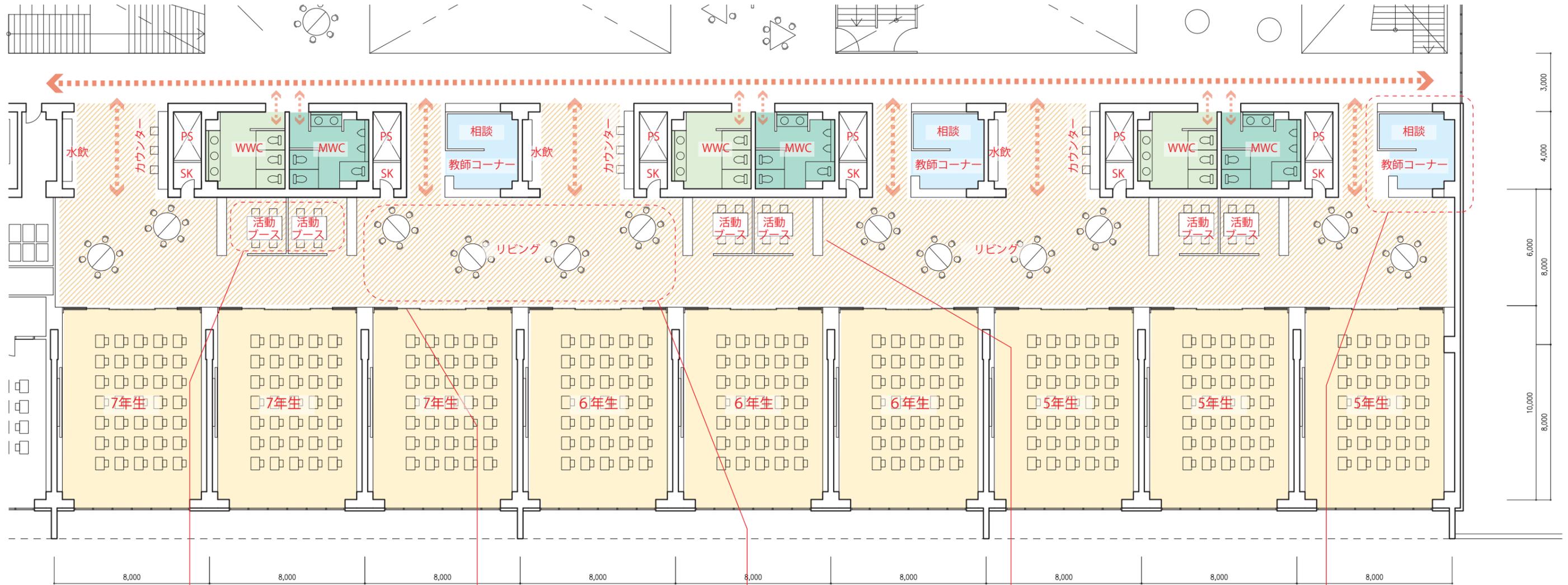
グループ学習、個別学習、学年の集まりなどに利用しやすいフレキシブルな家具備品壁で囲われて落ち着きのある活動ブースを壁面際に設置します。また学年間の広いスペースには可動式の組合せ家具を配置しフレキシブルな利用が可能なスペースを作ります。

北側の特別教室側から利用できるトイレ

2ndステージが位置する2階の北側には特別教室群が配置されます。特別教室を利用する他階の児童生徒にも利用しやすいトイレとします。

フレキシブルな教室間仕切り

教室とリビング間には、大きく開放することができる引き戸を設置します。開放し子どもたちがリビング側に移動しやすい設えとしたり、閉じて授業に集中したりと選択的な利用ができます。



囲われた活動ブース

賑やか×複



グループや個人での調べ物学習が可能なスペース

開け閉めしやすい引き戸



グループワークやプレゼンスペース

賑やか×複



先生や地域の方を呼んだレクチャーなども可能

収納・展示スペース



子どもの自由な活動を促す仕組み

教師コーナー

静か×複



気軽に相談したり、日常的なコミュニケーションを図る場

※写真は活動シーンのイメージであり検討中の内容です

【3rdステージ】



受験を見据えた時期であるため、勉強に集中できる環境や、対話力の向上がはかれる場を目指します。個人で集中できる場と仲間へのプレゼンテーションや意見交換の場を合せて整備します。

集中と対話を促す家具の整備

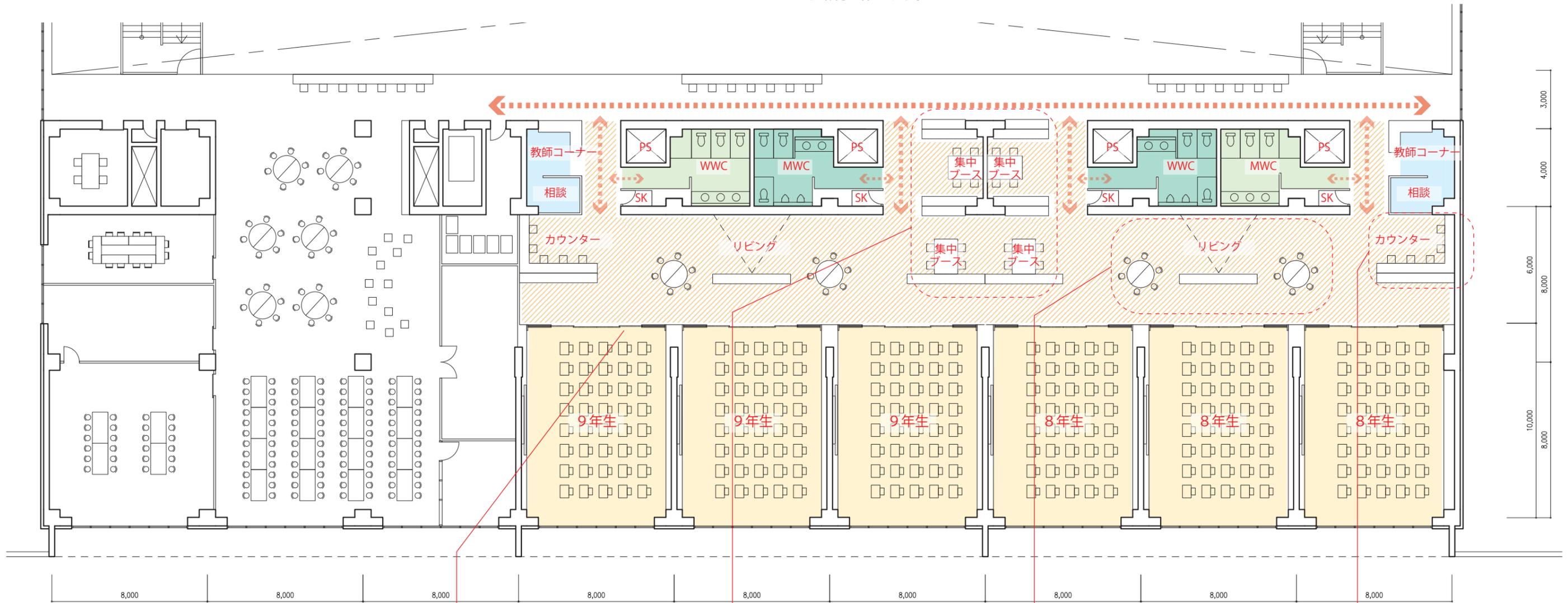
個人で集中ができる学習カウンター、グループで対話したり大きな机を使って作業をすることができる集中ブースなどバリエーションのある家具を整備します。

大きな壁面を利用したプレゼンスペース

学年のまとまりの中央部の大きな壁面を利用したプレゼンスペースを整備します。プロジェクターを用いた発表や壁面への掲示などに利用が可能です。

授業やテストに集中する教室

教室とリビング間には固定の間仕切りを設置します。基本的には教室を閉じて利用し、集中できる環境を作ります。



教室の前後で出入りする間仕切り



集中ブース

静か×復



個別学習やグループワークにも活用できる

プレゼンスペース

賑やか×復



小グループやクラス単位で利用できる

学習カウンター

静か×個



個人で集中できる場所

※写真は活動シーンのイメージであり検討中の内容です

成長段階に配慮した前期後期二つの保健室

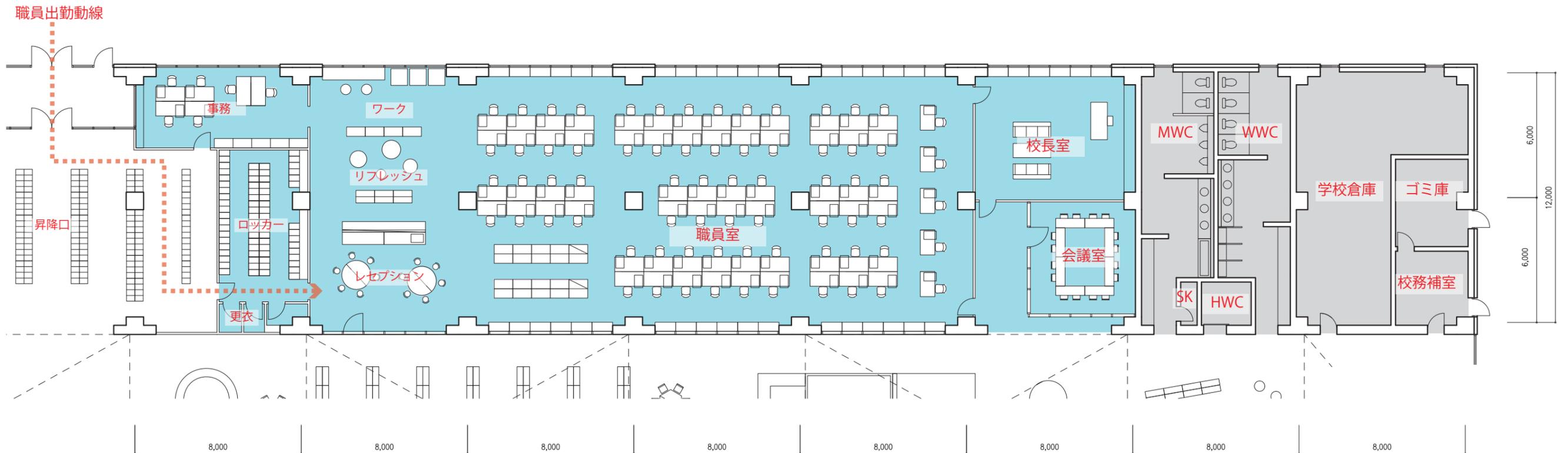
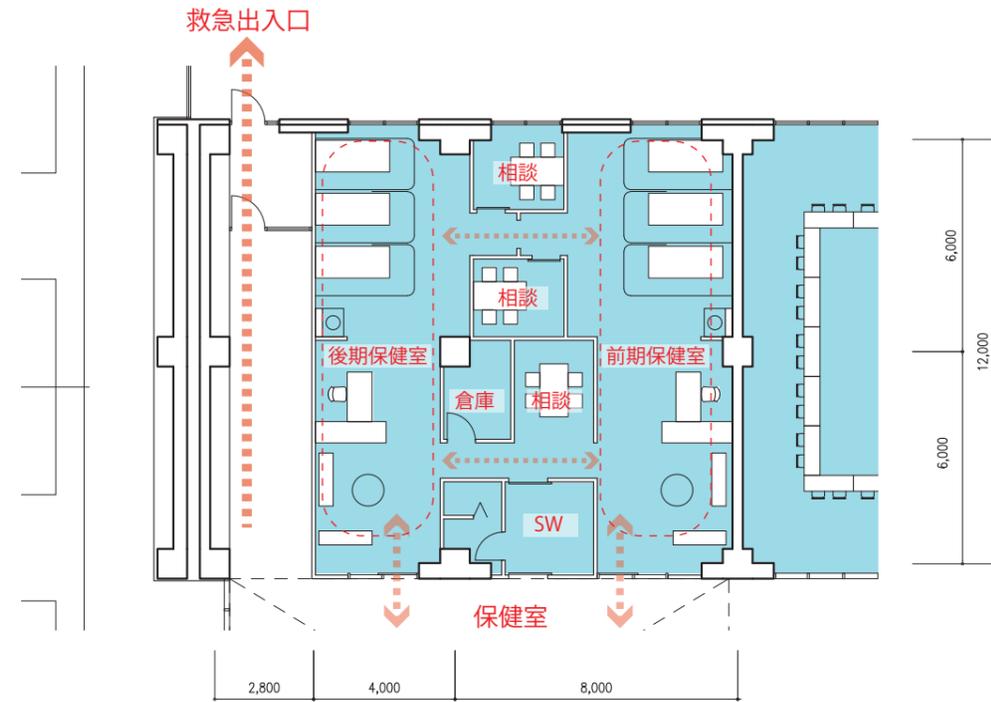
成長の段階が異なる前期課程と後期課程それぞれの保健室を整備します。限られて人数の職員でも管理運用がしやすくなる動線等の配慮を盛り込みます。また、相談室やシャワーユニット等は前期、後期共用での利用を想定します。ケガ人や病人の救急搬送のために昇降口とは別の救急出入口を保健室脇に設置します。

動線に配慮した使いやすい職員室

前期後期の教職員を一つの職員室に集約します。児童生徒の昇降口に隣接した職員玄関からロッカーや更衣室を経由して職員室へアクセスできる利便性の高い動線計画を採用します。また、児童生徒や来客とのミーティングに利用できるレセプションエリアを職員室の入口付近に設置します。外部からの来客の対応として、事務室を昇降口に隣接して設置します。

教職員のリフレッシュの場の整備

教職員が休憩しコミュニケーションを取るためのリフレッシュコーナーを職員室の一角に整備します。完全に閉ざされたコーナーではなく、適度な視線の制御や音の制御を行う工夫を盛り込んだセミオープンスペースとします。また、歯磨きコーナーやパウダーコーナーを併設した職員トイレ等を計画し働きやすい環境を作ります。



断面計画

多様な居場所をつくる共用部の断面計画

吹抜のまわりに大中小様々なサイズの空間をちりばめ、多様な学びの場を作ります。

【コート】

1階中央に位置し開放的な三層吹抜 と 1階東側に位置する二層吹抜

昇降口に近接し学校のエントランス空間となる三層吹抜を「エントランスコート」、図書機能の中核を担う開放的な三層吹抜を「メディアコート」と位置づけます。また、東側の二層吹抜を多目的利用が可能な「マルチコート」、低学年が落ち着いて利用できる場を「リトルコート」と位置づけます。コートは全て1階に位置します。空間は緩やかに分かれていますが全ての学年の児童生徒が行き来しする連続感のある空間になります。

【スポット】

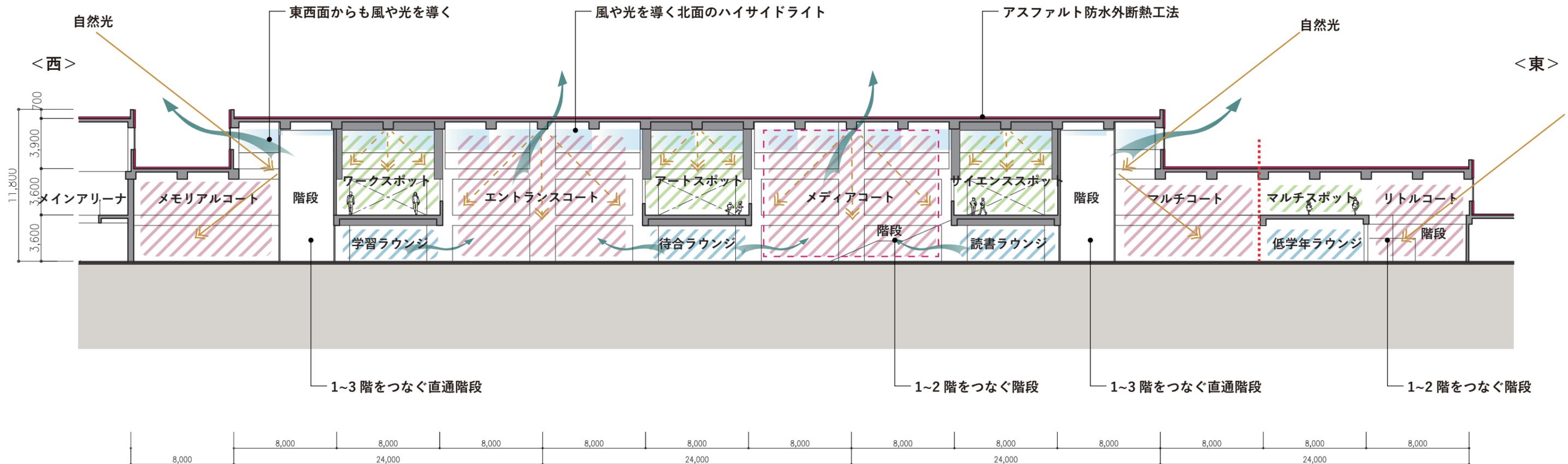
特別教室に連続し、教科の特徴に応じた二層吹抜空間

2階北側の特別教室と連続する4つの空間をスポットと名付けます。家庭科室、技術室に連続する「ワークスポット」、図工室と美術室に連続する「アートスポット」、第1、第2理科室に連続する「サイエンススポット」、第3理科室と多目的室に連続する「マルチスポット」の4つになります。それぞれの教科の特徴に応じた家具備品の配置を検討します。

【ラウンジ】

1階の落ち着いた学びと交流の場

スポットの下階に位置する落ち着いた学びのある空間をラウンジと位置づけます。活動の種類に応じてそれぞれ「学習ラウンジ」「待合ラウンジ」「読書ラウンジ」「低学年ラウンジ」と位置づけ特徴ある場を整備します。



断面計画

ステージが上がる毎に成長を感じる断面計画

1階に1st、2階に2nd、3階に3rdと学年毎に上階に積み上がっていく断面構成を採用します。普通教室及びリビングでは天井高に変化を与えステージ毎の特徴に見合った成長による変化を感じられる学習の場を作ります。

1階に位置する1stステージ

天井高さを抑え落ち着き親密な空間とします。南側の外部のつながりを作ります。授業や休み時間の利用や避難の際の二方向避難経路としても利用できます。

2階に位置する2ndステージ

徐々に体も大きくなるため、普通教室においては、1stステージよりも天井高を確保します。

3階に位置する3rdステージ

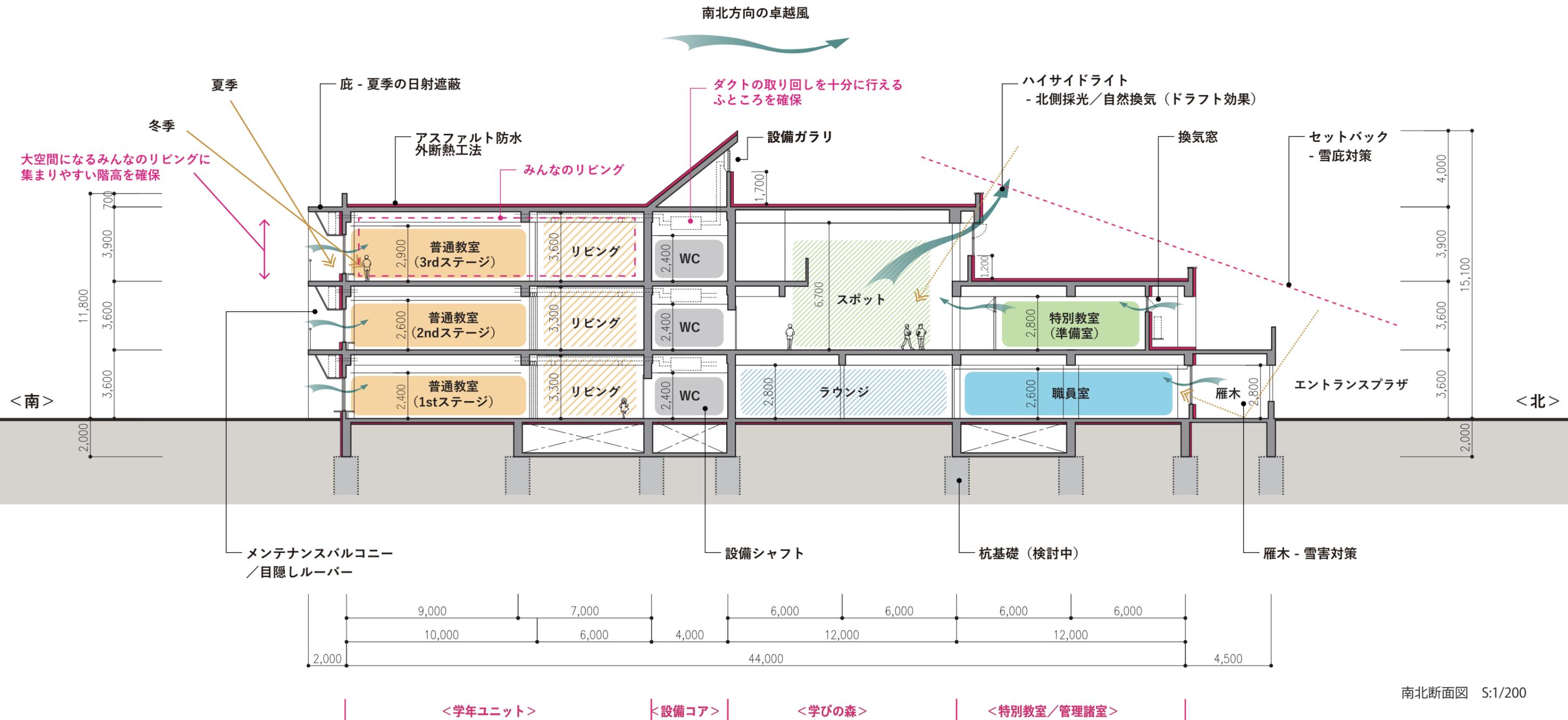
3rdステージは落ち着いた3階に位置し集中できる環境になります。成長期を迎えるため体格にあったゆとりある天井高を設定します。また3階には異学年交流の場となる大きな面積の「みんなのリビング」が配置されるため余裕をもった階高設定を行います。

自然エネルギー利用を促す断面の工夫

夏季の日射を遮る庇を南面に設置し、エアコンの負荷軽減を図ります。また、中間期には卓越風を利用して、建物内に大きな風の流れを作る工夫を盛り込みます。

冬季の雪庇の影響を最小限にするセットバック形状

冬季は南からの吹雪の影響が懸念されます。建物をセットバックさせる断面形状を採用することで、雪庇を下階の屋根で受け止め歩行者への影響を最小限にします。



5-7. 内観透視図



□エントランスコートイメージ

5-7. 内観透視図



□待合ラウンジからメディアコートを見たイメージ

5-7. 内観透視図



□サイエンススポットのイメージ

5-7. 内観透視図



□3階廊下からみた吹抜けのイメージ